

◇名古屋グランパス サポーターズミーティング議事録

◇日時：2016年7月31日（日） 18時45分～20時30分

◇場所：トヨタスポーツセンター 第2体育館

◇ご来場者：365名

◇クラブ出席者：代表取締役社長 久米一正、代表取締役専務 中林尚夫

チーム統括部部长 松本高德、チーム統括部担当部長 保坂勝、マーケティング部部长 町田淳

<代表取締役社長 久米のプレゼンテーション>

久米 皆さんこんばんは、グランパスの久米です。お休みの中、グランパスをこよなく愛していただいている皆さんに、このようにたくさんお集まりいただきまして、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。また、先日の甲府戦では、トップである社長の私の対応が非常に悪く、結果的には皆様方に本当に申し訳なかったとっております。以後このようなことがないようにしっかりと対応させていただきたいとっております。

2016年のシーズンがスタートいたしまして、小倉監督のもと1stステージ、2ndステージと戦ってきております。小倉体制になって、なかなか勝てていない、そういったことも踏まえて、「本当に大丈夫なのか」というたくさんのご意見をいただいているのも事実でございます。少し私の時間を頂戴しまして、「今グランパスはどういう風になっているのか」「大丈夫なのか」といった話をお聞き願ひまして、皆さんの忌憚のないご意見・ご質問を聞かせていただきながら、お話をさせていただけたらなと思っておりますので、暑いですが何でもうかよろしく願ひいたします。

皆さんからいただいたご意見の中で「なぜ、小倉を選んだのか」という質問も非常に多かったので、その辺も踏まえてご説明をさせていただきたいと思ひます。

Jリーグがスタートしてちょうど24年が経ちました。名古屋グランパスは平木さんからスタートいたしまして、これまで14名の監督さんがグランパスに関わってくださいました。平木さん、三浦さん、ベンゲルさん、ケイロスさん、ストイコビッチさん、西野さん、ネルシーニョさん、今まで14人の監督の皆さんにグランパスを率いてもらいました。そんな中で頂点に立ったのが、皆さんご承知のとおりストイコビッチ監督に率いてもらった6年になります。2008年に来られて「3年目に優勝しましょうよ」ということでストイコビッチさんをサポートしながら、皆さんの熱い声援もありながら2010年に優勝させていただきました。記憶にまだ残っていると思ひます。2010年も実はナビスコカップの成績の悪さで、サポーターの皆さんが怒り心頭で、京都の地で叱咤激励をいただいたのを覚えています。そのときにサポーターの皆さんの熱い気持ちも伝えながら選手たちを鼓舞して、2010年にああいう形で優勝できたんじゃないかと思っております。この会も、皆さんの熱いご支援、叱咤激励だということを、選手も監督も、我々フロントスタッフもしっかりと肝に銘じてやっていかなければいけないという風に考えております。

そんな中で、6年やったストイコビッチさんがどうして成功したんだろうということで、グランパスのOB、レジェンド、それからとかくサッカースタイル、スポンサーも含めてストイコビッチさんならOKだろう、ということで成

功したということでございます。そんな中で我々は日本人の監督、それから赤いユニフォームに袖を通した監督を探しておりました。

昨年の6月、私のもとに小倉 GM 補佐がやって来られました。そこから彼の持っているサッカースタイルを含めて、名古屋グランパスの今後10年、20年、30年先を見据えて、どうやったらこれから成功するだろうかということをお倉さんと一緒に話させていただきました。そんな中で新しい外国人の監督さんも考えましたが、それよりも小倉に任せてみようじゃないかと。若い日本人の監督を育成しよう、それは名古屋グランパスの赤いユニフォームを着ていた監督だと。しっかりと日本を代表する監督として仕上げたいんじゃないか、というようなこともありまして、地元の出身でもあり、サッカースタイルへの理解も含めて、小倉監督を監督に私が指名させていただきました。

そんな中でどのようなサッカーを目指すのかというと、スマートでインテリジェンスにあふれ、テクニカルで組織として連動するサッカー、5人目まで連動するサッカー。皆さんも「5人目まで」というと「うーん、どうなんだ」と言う方もおられるかと思いますが、とにかく「左サイドでやる時には必ず逆サイドの選手も連動して動くような、ムービングなサッカーを目指していきたい」と。こんな、彼の目指すサッカーの方向性も踏まえて私も納得しました。じゃあ現状はどうなんだという、目指すサッカーは徐々に浸透しつつも試合で発揮できるまでには至っていない、これはサッカーをこよなく愛している皆さんのほうが分かるんじゃないかと思います。

現状は年間で16位、2ndステージでも2分4敗、昨日の横浜戦も含めて、少しサッカー観を変えようじゃないかと、理想より現実に立ち戻ろうと。とにかく勝ち点1でもいいから取ろうぜという話もさせてもらって、監督も腹落ちをして、マリノスに乗り込んだのも事実であります。5バックで守ってカウンターだということで、「言っていることとやっていることが違うじゃないか」という風に思いますけども、現実として2ndステージ意地でも勝ち点を取っていくためにはこういうサッカーもやむなしということで、小倉監督の了承のもと、少し明かりも見えたかなと思う次第でございます。

また、監督とコーチに対する現状の評価の話もさせていただきます。実は今年スタートしたときは4節までは2勝1分け1敗でした。「小倉監督やるな」「行けるんじゃないか」という思いを皆さんもお持ちになったのではないかと思います。残念ながら5節からはなかなか勝ち点に恵まれないというような1stステージになりました。そんな中で、やはりシーズン中、5節からなぜ勝てなかったのか。相手も対応してきます、シモビッチに対して2人で挟み込んだり、サイド攻撃も封じられたりして、色んな手を使ってやってきていたのも事実であります。そのシーズン中の修正がちょっと足りなかったという気がいたします。

もう一つは決まりごとの理解と浸透です。どこでボールを取っていくのか、どこでどういう風に攻めていくのか。そういう決まり事の理解と浸透が必要だと思っております。

それから我々フロントに対する現状の評価です。選手構成について、長期離脱者が出て、「トップがしっかり構成して小倉監督をサポートしろよ」というような声も非常に多くいただいております。その辺も踏まえて後ほどご説明しますが、選手構成もしっかり考えていけなくちゃいけない。それから、どうしても1年目の監督でございます。長谷川健太さんが39歳で、西野さんが41歳で、ストイコビッチさんは42歳で監督の経験もございませんでした。それから長谷川健太さんは浜松大学の監督をやられて、Jリーグ監督の経験はございませんでした。西野さんはオリンピックの監督はやりましたけどクラブの監督をやるのは初めてで、42歳、41歳、39歳と若い青年監督を担当したわけですけども、とにかく新人の小倉さんは42歳です。

今年 43 歳になったばかりです。その新人監督をサポートしていく体制がちょっと甘かったかなと、しっかりサポートが築けていなかったんじゃないかなと大いに反省しております。

それから GM 兼監督としてのオフィシャルな職務もあります。新人選手を取らなくちゃいけない、ご挨拶にも回る機会もある。色々な負担を掛けていたことも事実でございます。ですからその辺も踏まえて、しっかりこれから考えていく必要があるという風に話しております。

それから、選手に対しての現状の評価でございます。それから、個人のスキルと体力、プロとしてのメンタリティ、後ほどメンタリティについてはお話をさせていただきますけど、やはりとにかく逃げないでしっかり対応していかなければいけない。プロとは何ぞやというようなことを選手にも話をしています。愚痴をこぼさない、言い訳をしない、人のせいにならない、というようなことをプロとしてのメンタリティとして選手たちに植え付けていく必要があると思っております。

実は鳥栖戦が終わった後に、皆さんがスタジアムにとどまっておられました。そのときに 300 人か 400 人おられたと思いますが、私が出ていきまして、「このままでは終わりません。ぜひ我々を信じてお願いします」というお話をさせていただいたと思います。「小倉監督も私も、代わらない」というような話もさせていただきました。

監督がボランチを強化したいと、MF を強化したいと。ワイドもできてボランチもできる選手がほしいということで、ハ デソンという選手を FC 東京からお借りました、もう 1 人はセレッソ大阪から扇原というロンドンで日本代表としてプレーしました、正確なフィードを放つ左利き、テクニックがある選手を補強しました。それから松本山雅から酒井という選手を補強しました。この選手たちを補強しましたが、残念ながら鳥栖戦でハ デソンが負傷してしまい、鹿島戦で扇原が骨折をしてしまったと、不運なケガがありましたけど、彼らは前向きにとにかく早く治そうと取り組んでいます。酒井についても、この間はミスを犯しましたが、前向きに、とにかく前進あるのみだぞということで、とにかくメンタルをやられないようにしっかりとケアをしています。

ここからが大事な話です。J1 残留に向けて何をやるのか、というところでございます。J1 に残留するためには、私は監督続投がベストだと思っております。

そう判断した理由の一つは、監督と選手の信頼関係が崩れていないということ。これはですね、私も 20 何年 GM としてやってきましたが、選手が監督のもとを離れていってしまうんですよ。それで監督の交代をせざるを得ない、というのが大体ほとんどでございます。ストイコビッチさんが 6 年続いたのは、選手が離れませんでした。「この監督について行ったら、よし、いいことがある」。実は小倉さんと選手の信頼関係もこの調子で、「とにかく小倉さんに優勝を、とにかく勝利を」と選手たちが口々に言っているのも事実です。これはたぶん小倉監督から選手は離れているんじゃないか、そういう風にお思いになるのかもしれませんが、実はそこは私も見ておりますが、絶対にそれはありません。

もう一つは小倉自身が勝負を諦めていないということ。試合が終わった後ですが、記者会見等もまだ慣れていないですね。悔しい思いが前面に出て、どうもちょっと弱気なような発言をしていることがありますが、あれは本人の悔しさなのかなと思います。

それから監督を支える体制の強化ということで、実績のあるコーチを招聘し、それからスカウティング担当を増員、加えてチームスタッフを投入しようとしております。監督を支える、フロント体制をもう少し、今以上に充実させていきたいという風に思っております。そんな中で新しいコーチを迎えました。彼はストイコビッ

ちさんのときの腹心的な存在で、とにかく明るい性格ということで、規律もしっかりしている。とにかく小倉体制の下でしっかりとサポートしてもらおうということで、お昼に彼と正式な契約を結びまして、とにかくここから 5 カ月の契約で小倉をサポートしてもらいに来たので、「とにかく助けるから、何でもやるから」というような話もいただいております。ボスコ・ジュロヴスキー が新しくアシスタントコーチとして新しく加わりました。社長が勝手に決めたんじゃないかとい情報がありますけれども、実はストイコビッチ監督のもとボスコがコーチをやっていたときに、小倉さんが S 級ライセンスを取りに名古屋グランパスに来られました。このときに小倉さんとボスコは非常にフレンドリーに、忌憚のない意見を交えていたんですね。そういうこともあったので小倉さんも「よし、やりましょう。戻ってくれるのならとにかく助けてもらいたい」というような監督の意見もあって、私が独断で決めたわけではありません。

それから残り 11 試合ですね、戦い方は昨日のマリノスで少し光明が見えたなと思いますけども、チームの戦術、特に守備の徹底をしっかりとやっていこうと思います。それから失点を最小限にするために、少しシステムを触っていく必要があるかなと思っています。これから広島、浦和、柏と。柏は 4 バックですが、広島と浦和は 3 バック、そういったところも踏まえながら、しっかりとやっていく必要がある。戦う姿勢、絶対に一对一で負けない、というようなものも含めて、しっかり戦い方をやっていこうと。

私は選手たちにはいつもこう言っています、「残りの 5 試合が勝負だ」と。優勝するときも 5 試合、こうやって下位に低迷するときも残りの 5 試合が本当の勝負だぞと。90 分のうち最初の 45 分はまあまあ、うーんといった感じで見てもいいんですが、残りの 15 分が本当に勝負なんだぞと。なぜそこが勝負になるのかとお思いになる方もいらっしゃると思いますが、本当に苦しいのは残りの 15 分なんです。「早く終わってこないかな」、「このままじゃもう太ももが持たないよ」というのが残りの 15 分です。ですから皆さん、これは私からのお願いなんですけど、残り 15 分が本当に勝負だと思えますから、ぜひ熱い声援をしていただきたいと思っています。

最後にですね、とにかく我々は 3 つの現実の中にいます。勝つか、負けるか、引き分けるか、このリアリティの中で、勝負の中で戦っていかなくちゃいけない。勝つにはどうすればいいのか。11 人で戦うわけですが、一人、一人でもサボったらダメだぞと。自分自身に負けるな。これが勝つための秘訣だぞと、いうようなことも言っております。それから組織、技術的なスタッフをどう動かしていくのか。これはみんなで同じ方向を見て、「小倉丸に乗ったからには、一人たりとも違う方向を向かせないぞと。なんで必勝祈願やるのかと、必勝祈願をやるのは同じ船に乗らせて同じ方向を向かせるために必勝祈願をやるんだと。みんなで手を叩いて行こうじゃないかと。ということで必勝祈願をやっているんだということを選手たちに話をさせていただいています。

サッカーチームというのはリアリティの中で戦っているのが不安定要素が非常にあります。入れ替えが近くなると皆さん、「大丈夫か」と、90 分とにかく叱咤激励しなくちゃな、という風な思いにもかられます。常日頃から一挙手一投足が周囲の目にさらされており、とにかく選手たちにはフィジカルもそうですけど、メンタル面を大事になってくると、話を選手にしております。

とにかく選手たちにとってメンタルは非常に大事でございます。皆さんの応援が本当にすべてですので、残りの 11 試合もぜひ熱いご声援を、こよなくグランパスを愛していただいている皆さんだと思いますので、よろしく願いいたします。

皆さんから頂戴した質問に対して、少し私が話をさせていただきました。これからは皆様方と、忌憚のない

いご意見を伺いながら、グランパスのこれからを話していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございます。

<質疑応答>

※質疑応答前に、先日の甲府戦に関する新聞への写真掲載について、司会よりお詫び。

質問①-a： ○○と申します。質問は一つとおっしゃっていたんですけど、二つだけ聞かせてください。一つは今日、小倉監督というか小倉 GM が出ていない理由をはっきりと教えてください。監督というのは与えられた戦力に基いて戦う立場です、だけど GM という立場は編成も含めて、すべてのゼネラルのマネジメントをやるはずなんです。その小倉 GM が来られない理由を教えてください。もう一つは先ほどボスコの話がありましたけど、現ヘッドコーチと二人両立するのかということ、本当にボスコが頼りで託すのであれば、どんな契約かは知りませんが、今のヘッドコーチを切るべきだと思います。ボスコにすべてを任せるべきだと思います。最後に、私自身浜松出身の昭和 30 年生まれですので、久米さんとは年齢も近いし出身も近いので今まですごく親近感を持っていて大好きでした。だけど甲府戦の後の今となっては大嫌いです。非常に言葉が軽いです。危機感が感じられません。今の久米さんの 20 分の説明、その後に拍手はありましたか？ あれがすべてを語っているんです。選手と小倉監督には信頼感があるのかもしれませんが。しかし社長を含めたフロントとサポーターの間に信頼感はあるのでしょうか、これについては回答は求めませんけれども、正直な気持ちとしてお伝えします。

久米： 貴重なご意見ありがとうございます。小倉監督・GM はこの場に連れてこようとは思っていません。本人もぜひサポーターの前に出て話をしたい、という話もございました。しかし彼は、これから 11 試合厳しい状況の戦いに臨むわけで、とにかく彼をこれからどういうふうサポートして、やっていかなければいけないのか、ということを考えて、私の判断で小倉監督を出席させない形にいたしました。

それからもう一つのボスコさんのお話ですが、現在はステンリーさんがコーチを担当しています。両コーチとも連動しながら、ボスコさんにも守備のところをしっかりとやってほしいと話をしております。これから残り 11 試合の中でしっかりディフェンスを構築していこうと。彼はどちらかというと守備のところに入っていきコーチですので、守備をより強化していただけたらと思っています。同じ浜松の出身で同級生ということで嫌いになられたら困りますので、同郷の徒としてしっかり対応させていただきます。どうもありがとうございました。

質問①-b： 守備担当という言い方をされましたけれども、ちょっと詭弁に感じるんです。本当に両立するんですか？ テクニカルコーチという肩書きをつけようが、実質はヘッドコーチですよね。ヘッドコーチが二人はおかしいです。久米さんのところに、もともとヨタ本社から大物がまた来て、同じように副社長という立場で来たら、お互い絶対に意識し合って力を出せないと思いますけれども……まあこれを言っても無駄ですから、気持ちだけ伝えておきます。

質問②：〇〇と申します。昨年小倉監督を選ばれたというご説明がありましたが、クラブとしての方向性を長期的に考えて、あるいはサッカーのスタイルを継承していこうと、そういう風な意図で選ばれたと。そう理解したのですが、正直それが失敗しているんじゃないかと思わざるを得ない。ぶっちゃけて、経験のない OB に監督を任せるのは、どんなにサポートを強くしたとしても、早すぎた、あるいはそもそも無理じゃないかと私は思うのですが。

久米：小倉さんはクラブの OB で、クラブに対する理解も深く、これからのグランパスのサッカースタイルを築き上げていくという中長期的な中で監督に相応しいビジョンを持っていたので、私は指導経験が少ないというのは承知の上で、監督に就任をしていただきました。我々は小倉さんを信じてサポートをしていくという風に考えております。変革の年だということをご理解いただければと思います。

質問③：〇〇と申します。久米さんの過去の語録など見るとかなり DF を軽視しているのではないかと思います。阿部、増川、田中がチームを去ったときからそのように感じていたんですけど、DF を簡単に替えてしまう。今回の補強ポイントって大型センターバックだったのではと思います。ボランチをかき集めるよりも軸となるセンターバックを補強するという発想はなかったのでしょうか？

久米：闘莉王さんが抜けました。これは彼にとにかく残ってもらおうと契約交渉をしていたのも事実です。ただし、なかなか契約がうまくまとまらなくてですね、交渉はしましたがなかなかまとまらなかった。これが 1 月に入るか入らないかぐらいのことです。

もう一つはせっかく育てた本多と牟田とですね、契約が切れてしまう状況下で 2 人が J2 の京都に移籍して行ってしまった。これはグランパスにとっては残念な交渉であったという風に思っております。別に私は DF を軽視しているわけではありません。田中隼磨、増川隆洋、阿部翔平も含めて、たぶん皆さんもこよなく愛してくれていた選手たちですね、どうして手離さざるを得なかった状況というのは理解していただきたいと思えます。

12 年からクラブライセンス制度がスタートしました。それで 10 年 11 年、優勝して 11 年が収支上イーブンでした。どうしても選手たちは年俸交渉に入ってきます。選手と一対一のときはいいんですけども、代理人が介在して参ります。すると代理人によっては「こっちのチームでは年俸が上がらないならこっちへ行ってしまうおう」と。そうすると報酬の積み上げがどんどん上がってしまいます。そういうような中、クラブライセンス制度では 3 季連続の赤字は許されないと。あの年は選手年俸で 23 億使っていたところを 17 億まで落とさない限り、赤字に転落するだろうと。3 季連続赤字になって J2 に降格だぞということを J リーグ側から突きつけられていたのも事実です。

私はどちらかというと守備的なボランチでした。左サイドもやりましたから、DF を軽視しているわけではありません。たまたま年俸の高い選手たちが DF にいたということで、とにかく DF を軽視してはいません。

ですから〇〇さんは DF を軽視しているとお思いかもわかりませんが、経営をしていく上でどうしても判断せざるを得ない。本当に断腸の思いで契約交渉に当たっております。残念ながら先ほども言いましたとおり、

牟田と本多については私が取ってきた選手です。とにかく DF を軽視するつもりはありませんし、しっかりやろうと思っております。

質問④-a : ○○と申します。今月号のグランに載っていたと思いますが、フィジカル面で、現在のチームが走れていないという点に関して、どのような考察をしていますか？ 今季から新しくフィジカルコーチを、走れる湘南から呼んできたにもかかわらず、試合の後半に走れずに負けていることに関して、やっぱりメンタルだけでは……スタミナがあった上でのメンタルだと思うので、フィジカル面をこれから十分に強化できるのか。対策をどのように考えていらっしゃるのか聞かせてください。

久米 : 湘南から菊池というフィジカルコーチを今年、迎え入れまして、これは去年も含めて走りこめていない、というデータに基づいた判断です。それから鹿屋体育大学から専門のデータを分析するコーチも入れまして、胸に GPS を着けてどういう動きをしているのかということを逐一、練習から取り入れています。確かに J リーグが出しているデータによりますと、ウチは走れていない、というデータもあると思いますし、走れないから負けたとか、走れていないからロスタイムで負けたと、そういうところは確かにあるかも知れません。その辺も踏まえてしっかり、皆様のご理解が得られるようなデータを出せるようにトレーニングしていきたいなと思います。

松本 : 今、ご質問にあったチームの走行距離なんですけども、昨年と比べるとデータ上では 1 試合あたりで 5 キロ増えています。スプリント数についても 10 回ほど増えて、トレーニングの中で脈拍を測って、だいたい 180 をベースにトレーニングのメニューを組んでいて、選手に負荷がかかるようにトレーニングしております。もちろん負荷をかけるところと落とすところということでメニューを組み、時間を組み、チームで取り組んでいます。まだ今年 1 年目なので、これからどういうデータが出てくるのか、それをこれからどう活かしていくかということがチームの課題だと思っております。以上です。

質問④-b : 試合中に器具をつけているところは拝見していますので、しっかりデータを取ってやっているのだなということと、去年より 5 キロ上がっているのは、去年どれだけ少なかったのかと思いますが、向上しているという部分はわかりました。最初に言いたかったのですが、甲府戦のあと対応してくださったスタッフの方には厚くお礼を申し上げたいと思います。久米さんは本当にスタッフの方々のご苦勞、サポーターの気持ちを汲みとってこういう形を取ってもらったと思います。今後も僕らは信頼するしかないので、残留に向けて全力で応援します。

ご意見 : ○○と申します。質問ではなく、意見として聞いていただけたらと思います。小倉監督の続投は決定事項のようなので、不満に思うということをお伝えしておこうと思います。最近のグランパスの試合を観戦していて、とても苦痛に感じます。なぜ苦痛を感じるのかというと、負けても何も改善されていないからです。

本当は更迭を望むために意見しようと思っていましたが、それが無理のようなので意見させていただきます。試合後の会見で小倉監督はすごく憔悴しきった顔に見えます。小倉監督には組織を使って選手を動かす能力が足りないように感じます。このまま続けていても後半は目に見えている。昨日の試合も引き分けが精いっぱいという感じでした。そういったわけで小倉監督の更迭を望む意見を言うためにここに来ました。今までできなかったことがコーチを増やしたからといって、勝てるようになるとはとても信じられないという意見を言わせていただきます。

質問⑤：〇〇と申します。先ほど大型センターバックを連れて来るべきという話がありましたが、一部報道では闘莉王がチームの構想から外れていたとありました。それについてどう説明しますか？

久米社長：闘莉王さんとは今年の1月31日で契約が切れるということで、今年の11月ぐらいからぜひチームに残ってほしいという交渉をずっとしていたことが事実でございます。監督も自ら話をされて、「一緒にやろう」という話をしていたのですが決裂してしまいました。

そんな中で、私どもはDFを取らなくてはいけないということで、この中断期でもそうなんですが、とにかく12月の段階で大型センターバックを取らなくてはいけないということでオーマンを取ったとではその他で取れたかと言うとなかなか取れなかったというのも事実です。

ではこの中断期に補強しようということで、いろいろ手を打っていましたが、中断期にセンターバックを補強するというのはなかなか難しい、至難の業というのも事実です。そんなDFをないがしろにしている、甘く見ているという、先ほどご指摘がありましたが、そんなことはないということをご言わせていただきます。

質問⑥：〇〇と言います。監督としての小倉監督を支えるためにコーチを追加する話はわかります。では兼任されているGMとしての業務についてはどう考えられていますか？ 今日実際、GMとしてこの場に参加できないという状況ですが、今後も兼任させていくのですか？ 監督としてはコーチを補強されましたが、GMとしての業務も今後そのまま兼任されるのでしょうか？ ただでさえ残り試合は少ないですし、監督としての仕事がとても大切ですし大変だと思います。スカウティングを増やすという話もありましたが、今後はさらに厳しい戦いになると思います。それでもGMの仕事させ続け、かつ監督の仕事をしろということなのでしょうか？

久米：小倉さんは監督とGMを兼務しています。というのはもともと、監督がGMをやっていた頃から今シーズンはより制度を変えて、選手を連れてくるにしても、契約交渉については松本がやればいいのですが、ちゃんと見るところは小倉監督が見て判断したほうがいい。そのときにGMも兼務していたほうがよりスムーズに動くのではないかと、という私の判断もありました。

やはり監督の目で見て判断をして、ということで兼務をさせていました。ですけども、ここまで来て一番現場が大事ですので、今後監督とGMの兼務については少しお時間をいただいて、しっかりと考えていきたいなと思っております。よろしく申し上げます。

質問⑦と申します。プレゼンを見させていただいたんですけど、結果的には私の心には全く響きませんでした。なぜ響かないのか。その一つとして、小倉監督の戦術、「5 人まで連動するサッカー」というものに当初から我々も期待して数試合を見てきましたが、現在はかけ離れたものになっています。ここが一番、違うんじゃないかと思いますが、久米さんは「浸透しつつも試合で出ていない」と発言されていました。しかし私は全く期待がありません。失われた半年間を過ごただけです。この半年間が次の半年間に生きるのならまだ我慢もできます。でもたぶんこのまま継続されると思います。これが続けば来年は J2 です。現実は厳しいと思います。「浸透しつつも」という点について具体的にはどういうところが浸透していると考えているのかお聞かせください。

久米：小倉監督の今やっているサッカーが〇〇さんにも、皆さんにも響いていないという、ということだと思います。これは真摯に受け止めて、しっかり対応しなくてはいけないと思いますけれども、ここで小倉監督を簡単に解任して、では次の監督が来たときに、うまく上がっていくのかなと言えば、私は、私の経験の中で、非常に危険な賭けだと思います。

私はなぜ動かないのかというと、彼をしっかり支えていきたいと思っているからです。今回 1st と 2nd の期間がなく、すぐに 2nd がスタートしてしまったということもございます。そういった意味も含めて、皆さんの思いとはかけ離れているのかもわかりませんが、とにかく小倉を信じて、しっかり支えていきたいということしか私は今は言えない、ということです。とにかく皆さんのご期待に応えられるようなグランパスのサッカーを実現できるように、少しお時間をいただきたいと思います。

昨日のバスに乗り込む選手たちを見て、監督の対応を見て、監督には拍手がなかった、選手には拍手があったと。そういうことも監督はもちろんよくわかっています。帰ってきたときには、あるグランパスのサポーターから階段を降りるときに厳しい声を浴びせられました。

選手たちは当然勝てない、ずっと勝っていないという状況もあります。メンタル的な部分も含めて、これはなぜ皆さんにこういうお話をするかというと、メンタルでやられているチームは必ず J2 に落ちます。そういう風に私は思っています。

そんな部分も含めて、帰ってきたときに選手が何を言っていたかと言いますと、あの檜崎が大きな声で「次は勝つぞ」と。「この 1 点を名古屋に持って帰って、次の広島戦も頑張ろう」と。そういうことを、あのおとなしい檜崎と、あのおとなしい矢野貴章と、あのおとなしい竹内が、ベテランの明神が、本当に大声を出して、監督も含めて私も「とにかく行くぞ！」というような話をして、若手を炊きつけて参りました。

そんなことも踏まえて、皆さんの目には小倉のサッカーが響かないのかもわかりませんが、やっぱり私は小倉を信じて、若い監督を育てていかなければいけない、といった気持ちでございます。私も先ほどの〇〇さんと同じで 61 歳です。定年で一線を退かれています人もたくさんおられます。「このままでは終わらない」と言ったのは、そういったところもあります。私を信じると言っても、「久米なんか信じるか」と皆さんは思われるのかもしれませんが、とにかく任せていただきたいと思います。

回答になっていないかもしれませんがよろしいですか。響かないかもしれませんが、拍手がないのはわかりましたが、皆さんに響くように頑張るつもりです。ありがとうございます。

質問⑧：〇〇と申します。先ほどありましたが、グランパスは平均走行距離は下から数えたほうが早い。スプリント回数は逆に上から数えたほうが早いです。ただ得点は取れていない。これが意味するのは、無駄走り、無駄な動きが多いということですね。先ほど松本強化部長が言われたとおり、この数字がすべてを表すわけではなくて、フロンターレは両方とも低い。走行距離もスプリントも低いけれど強い。先ほど松本部長が「昨シーズンと比べて5キロ増えている」と力説されていましたが、逆に言うと今まで動いていなかったのが動くようになったことから、ケガする選手が多くなったのかな、と個人的には思います。近年グランパスの選手が故障がちな中、フィジカル面の考えを少し教えていただきたいと思います。

松本：確かに昨年はですね、ケガが非常に多く、年間に30件のケガが発生しました。そのうち試合でケガをしたのは、私の記憶では2ケタ、10件なかったと思います。それが今年は逆に、練習のケガより試合のケガが多いのが事実です。

その理由とは言われますと、まだちょっと分析はしきれていないのですが、考えられることは、試合中の動きが練習のとときは少し違って、負荷がかかったり無理をしたりしているのではないかと。ケガを見ても非常にハムストリングが多くて、しかもケガをする選手が大体決まっています。その辺は体調、体質などをドクターと一緒にしっかり分析していかなければいけないと思っています。すみません、答えにはならないのですが、ケガ人が多くてチームの戦力が落ちているのは事実ですから、そこはしっかり反省した上で活かしていきたいと思っています。

久米：少し補足させていただきます。サッカーは昔も今も変わらないことが一つだけあります。私の時代もそうでしたが、苦しいときに何をすべきかという、パス&ゴーしなさいと。パス&ゴーするから、次にスペースが生まれる。だから次の選手が楽になる。ではウチの選手がどうかと言うと、出して、ちょっと止まると。強いところ、上位にいるところは必ず5メートルじゃなくて10メートルくらい出して走ってます。その5メートルと10メートルの差が走行距離に出てきているんじゃないかなと。

永井とこの間話をしたのですが「左サイドにいてもいいけど、パスを出して止まってるじゃないか。お前の良いところは？パス&ゴーして、裏に抜け出すことだろう？そうすれば次の人がもっと楽になるよ」と。パス&ゴーは大事だと。今も昔も変わらない。それが走行距離になっているのかなと。もしかしらウチが5メートルのところをフロンターレは10メートル走っているかもしれません。その差かなと思います。答えにならないかも知れませんが、ご理解いただきたいと思います。

質問⑨-a：以前の説明会にも参加させていただいたんですけども、そのときも確かクラブライセンスが通らないから、その可能性があるから補強はしない、補強は厳しいと言われておりました。それはあると思いますし、観客数が減ったりすることもあると思います。シーズンチケットを買う方が減っているということも認識しているんですけど、その中で私は10年間シーズンチケットを買ってきましたが、今年はもうシーズンチケットを買うのをやめました。去年の戦い方を見ていて非常に苦痛だったというのが正直な気持ちです。どんどん周りにいたサポーターの人が来なくなっていく現状を感じていまして、今年最初からサポーター離れが危

機感としてありました。実際、私は全試合、ホームは見に行っているんですが、行ったところで見たプレーというのは、選手がボールをロストしてしまうとか、セカンドボールが拾えないとか、すごく感じるんですけども、それは全体の選手の自覚だったり、永井選手が自分がパスを出したら歩いていたり、それは去年も目立ちましたし、腹が立って叫んでしまったこともありました。チームのプレーの質が落ちていると危機感を持っています。どのようにお考えでしょうか？

久米社長：貴重なご意見をありがとうございます。10年に優勝したときは、08年に私もストイコビッチさんと一緒に来たものですが、そのときにストイコビッチさんからは各選手の動き、質を上げなきゃいけないと。今いる選手を含めて少しずつ、少しずつ補強していこうと。代表の監督でしたら取っ替え引っ替えできるんですが、クラブだとなかなかそうはいかない。契約も残っている、複数年契約を結んでいる、単年の契約を結んでいるという中で、3年くらい時間をください、という話でその間にストイコビッチさんと一緒に選手を集めましょうということで、入ってきた選手がいます。

それが藤本であり、ケネディであり、ダニルソンであり、金崎といった選手がたくさん入ってきました。先ほども言いましたとおり、経営を圧迫するということで、だんだん選手たちがいなくなった中でしっかり皆さんの期待に応えられるような選手を取っていかなくてはと思っております。

質問⑨-b：決定的なシーンを決め切れなかったところが今年の問題だと思うんですが、それはどうお考えですか。去年まではそれを決めてたので、何とか残ってこられたと思います。

久米：シュートのうまい下手は意外と、2.4×7.28メートルのゴールに入れようとするプレッシャーがかかって、圧力があって、意外と上に浮かしてしまう。どちらかというとブラジル人選手は非常にシュートがうまいですよ。それは私から見ても、日本人とちょっと違うところがあるなという感じがいたします。

質問⑩-a：〇〇と申します。選手のケガが増えているところが気になるのですが、フィールドに立ってお金をもらう人たちがプロだと思っているのですが、そのプロの選手たちがちゃんとプロ意識を持って、私生活も含め、日々の練習、すべてに取り組んでいるとはとても思えない。そういう部分でもマネジメントはしっかりとされているんですか？

松本：先ほどはケガが多いと言いましたが、試合中のケガが多いというのは、年間を通じて、まだシーズン半分ですが、数としては去年と大体同数です。選手は毎日、クラブハウスに来ると必ず血圧を測っている。色々な検査をしています。それによって選手は夜更かしをしたとか、暴飲暴食ですとか、そういうものはすぐに出るようになっていきます。そこはチームのほうでしっかり管理できていますので、選手が夜遊んで練習に支障をきたす、試合に支障をきたすということは、我々はやっていないという風に判断しております。

質問⑩-b：ファンの一部として、試合後にそういうものを目撃したりとか、たまたま会ったこともあるんですが、

これで本当にプロとしてやっているのかなと、そういうところを見てしまったので、そういうところもちゃんとフロントとして選手の管理をしていただければと。本当にそうなのかという疑いがあります。今限られた戦力でやっていくしかないと思うので、それは本当に残された試合を頑張っていたきたいと思います。

松本：貴重なご意見ありがとうございます。我々もクラブもしっかりと選手を管理していきたいと思いますので、また応援をよろしくお願いいたします。

質問⑩：〇〇と言います。先ほどから聞いていると、金がないということばかり言っていて、これに対して豊田会長は何を言っているのかなと。はじめにトヨタは財布じゃないと新聞などに書いてありますが、それに対して社長、専務はどう思っているのかということ、J2 になったらどうするのかということ、以上です。

中林：中林でございます。質問にお応えいたします。まず豊田会長は財布じゃないという発言をされてましたけれども、今現在必要な資金については、スポンサーですとか団体チケットの購入等していただいております。私どもとしてはいただいているという認識でございます。その中でしっかりとチーム運営なりクラブ運営をやっていくことが、私どもに与えられた責任だと感じております。過去はどういう形でやってきましたかは存じ上げませんが、今、そして今後につきましては、この予算の中でしっかり戦っていけるものだとして理解しております。それから J2 降格の件につきましては、今回の説明会の趣旨自体が、先ほど社長の久米よりもありましたとおり、J1 に残留するためにはどうことを今やらなきゃいけないのか、何が今できるのが一番いいのか、そこに向けてチーム、クラブ、そして皆様と一緒に、あるいはステークホルダーの皆様とやることが第一でありまして、そこをまずはっきりしろと、そういう風に会長からも指摘いただいております。

質問⑩-a：〇〇です。単刀直入にお伺いします。久米さんはいつ辞めますか？ 周りの方はどう思っているかわかりませんが、僕は久米さんと小倉監督と一緒に J2 に落ちたくないんです。さっきおっしゃられたと思うんですけど、残り 5 試合、後半残り 15 分、ここから勝負だと話をされていましたが、もうとっくにそれは過ぎていたと思うんです。残り 11 試合ですよ。それぐらいの危機感がクラブから感じられないのが僕らはすごく不満です。一緒に信頼して、グランパスとひとつになる幸せ、そのためにひとつになって戦えないです。すぐ辞めてください。2 人そろって。

久米社長：辞めるのは簡単です。J1 に残留するということをしっかり私は対応していきたいと思っております。辞めるのは簡単です。逃げるわけじゃないですから。しっかり対応させていただきますから、よろしくお願いいたします。

質問⑩-b：簡単なら今じゃないですか。久米さんがこの先どこでどんなお仕事をされようが、俺らは知ったことではないんです。ただ、自分たちの好きなクラブが J2 に落とされるということが絶対我慢できないんです。そのために今できることをやらないと手遅れになるんです。これは別に久米さんの言うバタバタしているわけじ

やないんですよ。純粋な危機感からなんですよ。そこをはっきりしたいんです。じゃないと、この先一つも無駄にできない状況で、絶対にひとつになって戦えないです。

久米社長：貴重なご意見をいただきましたけど、とにかく小倉を支えてしっかりやっていくということに変わりはありません。この J1 に残していく。しっかり対応していく、そう思っています。とにかくしっかりと小倉をサポートしていただきたいと思っておりますから、ぜひここはガタガタしてグラグラしてやらないようにしていかないと、相手はいろんな忍者を放ってきます。

これは戦国時代と全く同じで、いろんなチームが名古屋を落としてやろうと。とにかくやってやるぞということで、とにかく忍者を放ってきます。その忍者に屈しないことが、J1 残留のひとつのやり方なのかなと思っております。必ず J1 残留させて、小倉をしっかり、いい監督に育てていこうと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。よろしく申し上げます。

司会：次の方で最後とさせていただきます。

質問⑬-a：さきほどメンタルの話をしていましたが、今シーズンのスローガンは「信頼」ということで、これはチームとサポーター、選手、みんな一丸ということ、オリジナル 10 の伝統をつなげていこうということだと思いますが、グランパスのイズムって何なのか、チームの信念って何なのかと。ピクシーは「Never give up for the Win」という言葉をスローガンに挙げていて、消えてしまいました。チームがそういう過去を全部切り捨ててるのかな、ということを感じてしまって。チームの信念を考えると、サポーターというのはグランパスを応援しようってことで、ずっとスタジアムに来て一丸となって、チームそのものの信念が監督が変わるたびにコロコロと変わっていているように感じます。選手もチームも目指すような共通のメンタル、そういうものが重要なんじゃないかと思えます。鹿島にはイズムがあるけど、グランパスにはそういうイズムが育っていない。そういう信念は何なのかということをはっきりさせてほしいなと。お願いします。

久米社長：鹿島は鹿島のジーコスピリットと言われますけれども、やり方を変えていない。先ほども言いましたとおり、グランパスは何だということを、信念を持ってしっかりとやっていく必要があると思います。私も 8 年になりますけど、なかなか出来上がってきていないのは事実でございます。グランパスでひとつになる幸せということで、皆さんの信頼を得るために信念を持たなければなりません。私が社長を仰せつかったのはトヨタではない者がまずやって、このチームの皆さんとどういう風に連動していくか、これが信頼を生むんだろと思っております。ですからサッカー自体の信念はいろいろ、監督さんが変わるたびに変わるのではなくて、しっかりとしたグランパスらしい、名古屋らしい、「名古屋はこういうサッカーだよ」というものを小倉さんにしっかりと作っていただきたいという風に思っております。そういった意味で小倉さんに期待しているのも事実です。

これから未来もサッカーは続いていきます。10 年、20 年、30 年、50 年経ったときにグランパスはこういう信念のもとにやってきたんだなというのを、先ほどの質問にあったとおり構築しなくてはいけないなと思っております。

質問⑬-b：今年のチーム始動の会見のときに小倉監督の「5人が連動する」とか、プレゼンは明確でなかったように感じました。小倉監督については、僕は2005年の甲府のときから好きなんです。そこでサポーターから信頼されていました。監督が変わるごとにコロコロ変わるチームではやっぱり上手くないと思います。

久米：貴重なご意見ありがとうございました。しっかりと信念を持ってやらさせていただきたいと思います。

久米：皆さん暑い中、お越しいただき厚く御礼申し上げます。私のプレゼンの後には拍手も起こりませんでした。その結果については真摯に受け止めて、しっかりと残り11試合を戦っていきますので、最後は拍手をもらえるようにしっかりとやっていきますので、よろしくお願いします。

※一部記録した音声データに聞き取りづらい箇所もあり、実際の表現と若干異なる場合がございます。ご了承ください。